

【研究主題】生き生きとコミュニケーションを図る児童を育てる指導の工夫
～笠原型コンテンツ・ベイストの手法を用いた授業づくりと到達目標を活かした評価を通して～

* 「笠原型コンテンツ・ベイスト」の特徴については、令和6年度版の実践を参照してください。

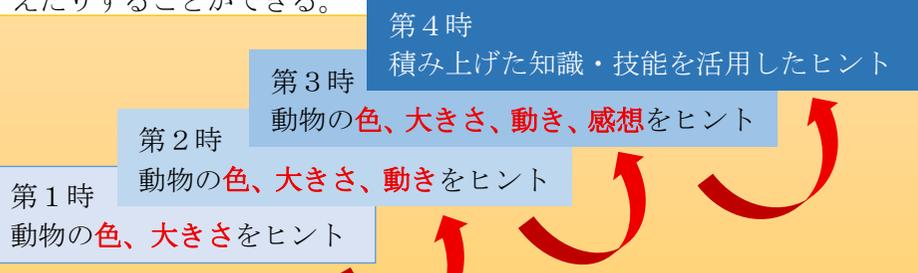
	公開日	学年	単元名
①	6月20日(金)	第2学年	「わくわく動物園をつくろう！」
②	10月24日(金)	第3学年	Unit5 What do you like?
③	12月17日(水)	第4学年	Unit7 What do you want?

① 付けたい力が段階的に身に付く単元指導計画の作成

第2学年 「わくわく動物園をつくろう！」 全4時 【本時：第2時】

【単元の目標】

○自分の動物園を動物でいっぱいにする活動を通して、みんながわくわくするような動物園にするために、色、大きさ、動作を聞き取ったり、伝えたりすることができる。



ここが秀逸！

◎単元終末の言語活動で、児童のコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせるために、それまでの単位時間において、スモールステップで語彙や表現に段階的に慣れ親しませる指導を大切にしています。



② 伝え合う内容と必然性を重視した問題解決的な言語活動の設定

第3学年 「What do you like?」 全5時 【本時：第5時】

【単元の目標】

○自分の欲しいものを手に入れたり、仲間の欲しいものを正しく渡したりするために、相手の好きなものを聞き取ったり、自分の好きなものについて伝え合ったりすることができる。

ここが秀逸！

◎本単元では、「ハロウィンを盛り上げよう」をテーマとし、飾りや衣装といった具体物を作成したり、着用したりする中で、児童のハロウィンへの興味関心を高められるように言語活動が考えられています。

また、仲間との実際のやり取りでは、「自分が気に入るものを作る」という視点だけでなく、「仲間に気に入ってもらおう」という視点も位置付けられ、相手の好みを十分に聞くこと（相手意識）も大切に指導されています。

③ 思考力・判断力・表現力を高めるための指導

第4学年 「What do you want?」 全5時 【本時：第5時】

【単元の目標】

○自分の理想の料理を作るために、自分の欲しいものを正確に伝えたり、相手の欲しいものを聞き取ったりすることができる。また、自分の考えた料理のよさを伝えるために、内容や話し方を工夫して伝えることができる。

本時の課題：「仲間が食べたいようになるように、クリスマスプレートの紹介をしよう！」

- 1 教師とALTのモデル提示に対して、「どんなところがよかった?」、「アドバイスを下さい」と問いかけ、児童から目指す姿を引き出している。
- 2 中間交流の場において、抽出児童の発表に対して、「どんなところがよかった?」と問い、仲間の表現のよさから学ぶことを大切にしている。

ここが秀逸！

◎上記1、2のどちらも、教師が指示をしたり、目指す姿を明示したりするだけでなく、児童自身に目指す姿について考えさせることで主体的な学びに繋がっています。